

国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてきています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時：毎月第3水曜日 15時30分～17時
 会 場：JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど
 会 費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）
 主 催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」
 後 援：JICA 横浜

（やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい）

問合せ先：

横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内

シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分科会

Fax:045-663-3263 担当：臼井道雄（045-891-5490）

URL jicasvob.com E-mail info@jicasvob.com



| 赴任国 (講師名) | 「タイトル」 講演概要 | 「タイトル」 講演概要 |
|--|---|--|
| 第75回 11月16日 (水) ボリビア (仲平四郎) |  | 「活動の有り様はすべて自分次第」 アジア圏のスリランカでのSV活動に感動し、その後西語圏の南米を希望しボリビアに行けた。異国土、異文化の中で活動し、人生の豊かな生き方とは何かを考えさせられた。他人のために生かされていると思って活動すると思わぬ運命が展開した。その後の生き方も変わった。 |
| 第76回 12月21日 (水) カンボジア (須山勝彦) |  | 「カンボジアの現状と、教育支援ボランティア活動」 1) 人を育てるボランティア活動。先生方に電子技術を教えたが、相手を信頼すれば皆それに応えてくれる。2) 行って、見て、感じたカンボジア。農村や漁村の暮らしはゆったりと時間が流れる。3) アジアの新興国カンボジア。2000年以降、年率10%の経済成長。軽工業（縫製業）から先端工業へと踏み出すカンボジアの今。 |
| 第77回 1月18日 (水) シリア (福島弘一郎) |  | 「シリアでのSV活動と生活・文化」 シリア国の概要をはじめに紹介する。続いて配属先で実施した仕事の内容を紹介する。時間の許す限り、シリアの生活環境。アラブの文化で興味を持った点や幾つかの遺跡について写真を中心にして説明を行う。日本の文化と相違する事がたくさんあり、珍しい体験をいくつもさせてもらった事を少しでも伝えられたらと思う。 |
| 第78回 2月15日 (水) モンゴル (安元昭寛) |  | 「モンゴルの生命線を守る！一発電所の技術指導と日本語教育」 「海外・火力発電所の設計～試運転に携わってきた経験と技術を海外で役立てたい」と、応募年齢ギリギリの69歳で応募した。現地の牧民とゲルに生活し、「家族を愛し長老を敬い、「もったいないの心」を肌で感じた。この国の将来を担う若き女子学生への日本語教育を通じて、文化の交流に努めた。帰国後「グローバル社会にどう立ち向かうか！」という講演で、わが国の若者に伝授している。 |
| 第79回 3月21日 (水) ボリビア (森 妙子) |  | 「ボリビアの青い空の下で」 ～知られざる日系人の軌跡～ 移住というとブラジル・アルゼンチンなどと言われる。どっこいボリビアでも日系人が頑張っている。歴史は古く110周年を祝った。戦後も次々と入植。艱難辛苦を乗り越えて、今ではボリビアの農業を支え、周囲のよき手本となっている。そして今、ボリビアはリチウムの埋蔵量世界一と注目され、今後日本との関係も強化されていくだろう。そんなボリビアの今も伝えたい。 |